

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第1号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願いたします。

記

1 情報の内容 麦類赤かび病防除等の徹底について

2 発生要因の現状

- 裸麦について本病の発生状況を調査した結果、発生圃場率、発病穂率ともに高く（表1）、地域別でも、東予・中予地域全般に発生し（表2）、一部では発病穂率1.4%と高い圃場も見受けられる。
- 1か月予報（4月19日 高松气象台発表、4月20日～5月19日）では、気温は高い、降水量は多い見込みで、発病に助長的となっており、収穫時期の遅い品種や播種時期の遅い圃場、追加防除を行っていない圃場では、発生が多くなる恐れがある。
- 開花期以降も、気温が高く降雨が多いと二次感染が助長される。

表1 赤かび病の発生状況(4月調査)

	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発生穂率 (%)
R6	173	54.9	0.15
R5	200	13.5	0.03
平年		4.3	0.03

表2 地域別の赤かび病発生状況(4月調査)

	東予			中予		
	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発生穂率 (%)	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発生穂率 (%)
R6	76	75	0.21	77	49.4	0.11
R5	86	9.3	0.01	94	16.0	0.02

3 防除上の注意等

- 開花の遅かった圃場では、1回目防除の7～10日後に追加防除を実施する。
- 乳熟期以降も気温が高く、連続した降雨があると、二次感染が起こり発生が増加するため、更に、追加防除を行う。
- 薬剤散布に当たっては、使用する農薬の剤型、使用時期等を考慮して適切に選択する。
- 刈り遅れにより降雨に当たると、赤かび病の進展を助長するため、適期に収穫する。
- 無防除や追加防除を行っていない圃場では、収穫前に圃場内を確認し、赤かび病（写真1、2）の発生が多い場合や倒伏がみられた場合は、可能な限り、赤かび病や倒伏の被害を受けていない他の麦とは分けて収穫を行う。
- 収穫後、適切な水分まで乾燥する間に、赤かび病菌が増殖する場合があるため、収穫した麦は可能な限り速やかに、乾燥調製施設に搬入し乾燥させる。



写真1 赤かび病発生穂（左：裸麦、右：小麦）



写真2 穎の合わせ目から見える桃色から
橙色の分生子塊